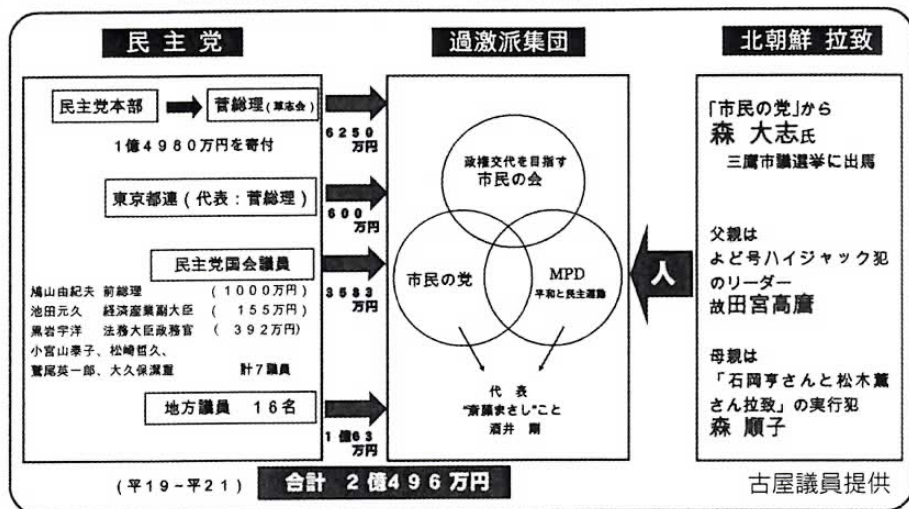


菅総理・民主党 と 過激派集団 の構図



古屋議員が7月19日の質問で使用した「構図」

が国民に肯定的に受け止められ、民主党の本質が見極められないままに、民主党政権が誕生したわけです。

従来の民主党の反政府的・左翼的色彩には、歴史的な背景があるわけですね。

古屋 たとえば昭和24年につくられた教育公務員特例法という法律があります。この法律では、教育公務員、つまり学校の先生は政治

菅総理らの献金先は 極左過激派グループ？

——過激派集団というのは、どういう根拠からですか。

古屋 「市民の党」「MPD」の代表をして

活動をしてはならない、と定められている。当たり前のお話です。しかし、この法律では妥協が行われ、罰則規定は設けられなかった。それによって、日教組の先生たちは白昼堂々、政治活動に没頭してきたのです。その日教組が自社対立時代の日本社会党を応援し、それがそっくり現在の民主党に受け継がれている構図です。先年、北海道5区で北海道教組がらみのひどい選挙違反が明らかになったのは、その氷山の一角です。そして、民主党の左翼的な傾向は、菅政権になってより鮮明になってきました。元総理の安倍さんがテレビで堂々と、「菅内閣は陰湿な左翼政権だ」と言いましたが、まさにそのとおりです。

今回明らかになった、菅総理の資金管理団体・草志会などの、「政権交代を目指す市民の会」(以下「市民の会」)や「市民の党」「MPD・平和と民主運動」への多額献金(別図参照)はその象徴です。これらの政党・団体・関係者は、政権政党や政権を目指す政党が絶対に関係を持つてはならない、過激派集団です。民主党はそういう集団と関係を持ち、平成19〜21年の3年間に、判明しているだけで2億円を超える献金をしているのです。

菅総理が6250万円、また鳩山前総理の1000万円をはじめ7名の国会議員が総額約7600万円。さらに摩訶不思議なことに、判明しているだけで16名の地方議員が総額1億3000万円以上(平19〜21)を献金しています。なかには一人で3年間で1700万円、1年で700万円出している人もいます。この人たちは議員歳費が収入の大宗を占めているはずですが、どうしてこんな多額

いる斎藤まさし氏こと酒井剛氏という人物は、今でも機関紙で、共産主義革命を目指していることを公言しています。また「MPD」という団体は、1983年に旗揚げしたとき、カンボジアのポル・ポト派幹部から届いた激励電文を披露しています。斎藤まさし氏は、極左暴力主義では共産主義革命は成し遂げられないとして、ある時期から選挙を重視するようになり、「市民の会」を通じて勝手連と称する選挙活動を行って、何人かの国会議員や知事・市長を誕生させ、朝日新聞の週刊誌「アエラ」に、「選挙の神様」としてヨイショされたこともあり。斎藤まさし氏らの動きは公安がマークしており、本来、民主党が付き合ってはならない集団なのです。しかし、民主党は国家意識、国家観、政権政党の責任といったものに欠けていますから、そこにつけ込まれたわけです。

——それにしても、民主党が過激派集団に多額の献金をするというのは、国民にも理解しがたい話だと思いませんか。

古屋 菅総理が6250万円、また鳩山前総理の1000万円をはじめ7名の国会議員が総額約7600万円。さらに摩訶不思議なことに、判明しているだけで16名の地方議員が総額1億3000万円以上(平19〜21)を献金しています。なかには一人で3年間で1700万円、1年で700万円出している人もいます。この人たちは議員歳費が収入の大宗を占めているはずですが、どうしてこんな多額